

これはアストラゼネカ英国本社が2005年1月27日に発信したプレスリリースの日本語訳です。
日本で未発売の製品については英語標記のままとします。

AstraZeneca PLC 2004年第4四半期・通年業績

「2004年は大幅増益； 最近の残念な出来事にもかかわらず

今後とも良好な収益増を予想」

ファイナンシャルハイライト (例外的項目控除前)

グループ	第4四半期 2004 \$m	第4四半期 2003 \$m	前年 同期比 %	恒常 為替 %	通年 2004 \$m	通年 2003 \$m	前年 同期比 %	恒常 為替 %
売上高	5,799	4,875	+19	+16	21,426	18,849	+14	+9
営業利益	1,319	849	+55	+68	4,770	4,111	+16	+15
税引前利益	1,345	869	+55	+66	4,866	4,202	+16	+15
例外的項目控除前 1株当り利益	\$0.59	\$0.38	+55	+68	\$2.11	\$1.78	+19	+18
法定会計(FRS3)	\$0.59	\$0.38	+55	+68	\$2.28	\$1.78	+28	+27
国際財務報告基準/国際会 計基準(IFRS/IAS)					\$2.18	\$1.76	+24	+23

伸び率は恒常為替レートベース (CER)

- 第4四半期の財務実績は良好；売上は16%増、営業利益は68%増。
- 第4四半期の営業利益はExanta™の引当金（7,100万ドル）とイレッサの引当金（8,500万ドル）を含む。
- 通年の売上高は主な成長製品の売上増（30%増の112億ドル）に牽引され9%増の214億ドル。
- 通年の配当は18.2%増の1株当り0.94ドル。
- Nexium™の通年の売上高は15%増の39億ドル。
- セロクエルの通年の売上高は33%増の20億ドル強。
- Crestor™の通年の売上高は9億800万ドル。2003年の売上は1億2,900万ドル。
- Symbicort™の通年の売上高は32%増の7億9,700万ドル。
- アリミデックスの通年の売上高は早期乳がん治療における使用増大により48%増の8億1,100万ドル。
- 当社は2005年の1株当り利益を2.40ドルから2.55ドルと予想（国際会計基準ベースで2.35ドルから2.50ドル）。

最高経営責任者トム・マキロップ卿は次のように述べました：「第4四半期の財務業績は好調で1株当り利益は68%伸長しました。最近発売した製品に関して残念な出来事がありましたが、アストラゼネカは2004年通年で非常に良い財務業績を達成しました。当社は、株主の皆様の信用を回復し、新製品の開発を推進するとともに主要製品の売上拡大と生産性向上の継続により今後数年間の収益増を達成することを決意しています。」

2005年1月27日 ロンドン発

Media Enquiries:

Steve Brown/Edel McCaffrey (London)
Staffan Ternby (Södertälje)
Rachel Bloom-Baglin (Wilmington)

(020) 7304 5033/5034
(8) 553 26107
(302) 886 7858

Analyst/Investor Enquiries:

Mina Blair (London)
Jonathan Hunt (London)
Staffan Ternby (Södertälje)
Ed Seage/Jörgen Winroth (US)

(020) 7304 5084
(020) 7304 5087
(8) 553 26107
(302) 886 4065/(212) 579 0506

Interviews with Sir Tom McKillop, Chief Executive and Jonathan Symonds, Chief Financial Officer are available in video/audio and text on <http://www.astrazeneca.com> and <http://www.cantos.com>

ビジネスハイライト 伸び率は恒常為替レート (CER)ベース

通年

通年の売上は、恒常為替レートベースで9%増、報告ベースで14%増でした（為替の影響5%を含む）。米国以外の売上は7%増でした。米国の売上は10%増でしたが、2004年および2003年の在庫変動調整後の売上成長率は15%と推定されます。

研究開発費および販売費・一般管理費合計は、下半期に予想されていた伸長率の鈍化を反映し、恒常為替ベースで6%増でした（報告ベースでは13%増）。通年の営業利益は、下半期に発生したExanta™とイレッサの合計2億3,600万ドルの引当金控除後15%増でした。通年の1株当たり利益は、2003年度の1.78ドルに対し、2004年度は2.28ドルでした（特別収入前では2.11ドル）。

主な成長製品の全世界の売上は通年で111億6,100万ドルに達し（30%増）、当社の総売上の52%を占めるまでになりました（2003年度の同比率は44%でした）。

Nexium™の通年の売上は15%増の38億8,300万ドルに達しました。米国以外の売上は29%増の11億6,700万ドルでした。米国の売上は数量ベースの伸長（20%増）により27億1,600万ドルに達しました。価格的には通年の業績に殆ど影響はありませんでした。2003年の在庫増に対し2004年は在庫が減少したため、米国の通年の売上成長率10%は、実質売上成長率を下回りました。

循環器製品の通年の売上は、米国における5億4,300万ドルを含むCrestor™の売上9億800万ドルが寄与し、17%伸長しました。これは大きな売上増ですが、Crestor™の安全性に関する、当社の見解では根拠のない批判により、米国の売上はマイナス影響を受けました。当社はすべての自社製品の安全性を極めて慎重にモニターしており、 Crestor™の安全性は他の市販されているスタチンと同様であることを確信し、マーケットシェアの順調な伸びを回復することを決意しています。

その他の注目すべき成長製品には、Symbicort™（売上は32%増の7億9,700万ドル）、アリミデックス（売上は48%増の8億1,100万ドル）およびセロクエル（売上は33%伸びて20億ドルを突破）があります。

第4四半期

第4四半期の売上は恒常為替ベースで16%増の57億9,900万ドルでしたが、報告ベースでは3%の為替のプラス影響をうけ成長率は19%でした。米国以外の第4四半期の売上は恒常為替ベースで6%増でした。米国の売上成長率は30%でしたが、在庫変動（主に昨年第4四半期のNexium™とToprol-XL™の在庫減少）調整後、実質売上成長率は約20%と推定されます。米国の第4四半期の売上は、在庫管理契約により売上変動が引き続き減少したため、概ね推定需要に沿ったものでした。

研究開発費および販売費・一般管理費は第4四半期も引き続き厳しく管理され、合計で2003年第4四半期よりも4%減少しました。営業利益は68%増でした。第4四半期の営業利益から控除された引当金には、フランスの薬事当局からの通知に伴うExanta™の在庫関連の7,100万ドルが含まれます。また、この引当金にはISEL試験の初回解析を受けたイレッサの在庫関連の8,500万ドルも含まれます。ISEL試験の初回解析ではイレッサによる治療を受けたけた進行肺がん患者の全体生存期間は統計的に有意な改善を示しませんでした。第4四半期の1株当たり利益は、2003年が0.38ドルに対し0.59ドルでした。

今後の見通し

Exanta™ とイレッサの後退は残念ではありますが、ビジネスは依然として堅調を維持しています。当社は、Nexium™、Symbicort™、セロクエル、アリミデックスの良好な見通し、 Crestor™ の米国におけるシェア拡大の復活等による継続的売上伸長を期待しています。この売上伸長ならびに厳格なコスト管理と生産性向上により2005年度には現行の会計基準では2.40ドルから2.55ドル（国際会計基準では2.35ドルから2.50ドル）の1株当たり利益を、また、その後2年間も良好な収益増を予想しています。

注意：当社の利益やビジネスの見通しに対する上記の予測的な記述はリスクや不確定要素をともなっており、実際の結果はこれらと大きく異なる可能性があります。たとえば、米国におけるオメプラゾールの後発品の売上伸び率、既存製品の継続的成長（Crestor™、Nexium™、セロクエル、Symbicort™、アリミデックス）、コストや経費の増加、利率の動き、為替レートの変動、税率などがリスクや不確定要素です。これらやその他のリスクや不確定要素については、2003年アニュアルレポートForm20 - Fを含む証券取引委員会への有価証券報告書をご覧ください。

売上高

伸び率は恒常為替レート (CER) ベースで表示

消化器

	第4四半期		CER %	通年		CER %
	2004	2003		2004	2003	
Losec™ / Prilosec™ (オメプラール)	446	528	-19	1,947	2,565	-30
Nexium™	1,106	836	+30	3,883	3,302	+15
合計	1,576	1,387	+11	5,918	5,943	-4

- 米国におけるNexium™の使用数量は、通年で20%増でした。価格の影響はほとんどありませんでした。在庫の動向を反映し、売上は前年比10%増でした。PPI市場の総処方量ではNexium™の12月のシェアは27.1%でした。マーケットシェアは対前年比1.8ポイント増加し、他のPPI製品の伸びを上回りました。
- 第4四半期の米国におけるNexium™の売上は、2003年同期の在庫調整を反映し、34%増でした。潜在予測成長率は14%でした。Nexium™は11月、高リスク患者における非ステロイド性消炎鎮痛剤の継続治療に伴う胃潰瘍のリスク軽減の新しい適応症で、FDAより承認を取得しました。
- 米国以外のNexium™の通年の売上は、多くの主な市場において業績が好調だったため、11億6,700万ドルでした(29%増)。第4四半期の売上は21%増でした。
- 米国におけるPrilosec™の通年の売上は、処方の減少に伴い58%減でした。
- 米国以外のLosec™の売上は第4四半期で22%減、通年で16%減でした。日本での売上は通年で、24%増でした。

循環器

	第4四半期		CER %	通年		CER %
	2004	2003		2004	2003	
Seloken™ / Toprol-XL™ (セロケン)	381	246	+53	1,387	1,280	+6
Atacand™	240	207	+12	879	750	+10
Plendil™ (スプレンジール)	94	157	-42	455	540	-20
Zestril™ (ゼストリル)	113	136	-20	440	478	-15
Crestor™	312	41	n/m	908	129	n/m
合計	1,321	990	+30	4,777	3,910	+17

- Toprol-XL™の米国における処方件数は通年で18%増でしたが、これは、遮断剤市場の伸び率の2倍です。12月の総処方件数のマーケットシェアは28.1%増で、昨年同期比で1.9ポイント増でした。
- Toprol-XL™の米国の第4四半期の売上は、2003年同期の大幅な在庫減のため87%増でした。これにより米国では伸び率は通年で7%増でしたが、対前年の正味在庫変動の結果、予測成長率を依然として下回るものです。
- 18ページに詳細を記していますが、Toprol-XL™に関する特許訴訟に関連して、当社は、係争中のToprol-XL™の特許の存続期間の一部放棄を提起することを決定しました。これにより、Toprol-XL™の特許の有効期限は2008年3月から2007年9月に変更されることとなります。
- 米国以外のセロケンの売上は、第4四半期で5%増、通年で3%増でした。
- Atacand™の売上の70%以上は、米国以外の市場によるもので、引き続き堅調でした(第4四半期は20%増、通年は18%増)。米国での売上は、第4四半期は5%減、通年では4%減で、処方動向と一致してしま

た。

- Atacand™ は11月、CHARM臨床試験プログラムの良好な結果を踏まえ、欧州相互認証方式により、慢性心不全の適応症で承認を取得しました。CHARMの結果により、ACE阻害剤の服用の有無にかかわらず、Atacand™ は、収縮機能不全の慢性心不全患者の死亡と入院を減少させる初めてのアンジオテンシン受容体拮抗剤であると同等されました。
- 米国FDA心血管および腎疾患用薬剤諮問委員会は、2005年2月24日に開催される会議で、Atacand™ の適応症として挙げられている慢性心不全の審査を行います。
- Crestor™ はこれまでに、67カ国で承認され、56カ国で発売されています。2004年末までに、投与患者数は400万人を超え、処方件数は1,500万枚を超えました。通年の売上は、9億800万ドルでした。
- 欧州におけるCrestor™ の売上は、第4四半期で7,400万ドル、通年で2億3,100万ドルでした。主な市場でのマーケットシェアは、第3四半期の報告以降、拡大しています。処方市場のシェアは現在、オランダで10.3 %、英国で3.8 %です。Crestor™ は、2004年春にフランスとイタリアで発売されましたが、直近のデータによると、処方市場のシェアは、フランスで4.4 %、イタリアで8.0 %です。
- カナダにおけるCrestor™ の売上は通年で、9,800万ドルでした。月間総処方市場における直近のシェアは、12.1 %でした。
- 米国におけるマーケットシェアは変動しました。理由は、Crestor™ の安全性プロファイルは市販されているほかのスタチン製剤と同様であるという当社の見解を裏付ける臨床試験で蓄積された豊富なエビデンスや市販後の使用経験の徹底した分析にもかかわらず、Crestor™ の安全性プロファイルに関する突発記事が報道されたためです。11月後半には、メルク社のVioxxに関する米国上院における公聴会においてCrestor™ および他の4製品に関する報道が再燃し、このことがマーケットシェア拡大の阻害要因となりました。14日現在で、Crestor™ の新規処方シェアは、6.0%でした。ダイナミックセグメント（新規および切替）のマーケットシェアは、8.2 %でした。2004年はこの件以外にも同様の批判的な報道が2件ありましたが、適切に対応し、今後もマーケットシェア拡大基調の回復に向けて取り組んでまいります。
- Crestor™ は2005年1月、日本で正式に承認されました。本格的なプロモーションに先立ち、市販後調査を実施します。規模や期間については現在、当局と最終的な調整を行っています。2005年には日本で大きな売上が達成される可能性は低いと考えています。
- 2004年10月、FDA は、Exanta™ の良好なベネフィット/リスクプロファイルが確立されていないと判断し、アストラゼネカは申請したどの適応症に対しても承認を得られませんでした。本剤の米国市場への導入の現実的な見通しがあるかどうか判断すべくFDAとの話し合いを継続しています。2005年1月、欧州において長期使用の承認を検討するにはさらに情報が必要であるとの要請をフランス当局から受けました。

呼吸器

	第4四半期		CER %	通年		CER %
	2004	2003		2004	2003	
Symbicort™	219	172	+20	797	549	+32
Pulmicort™	313	294	+4	1,050	968	+4
(パルミコート)			-	361	364	-3
Rhinocort™	93	92				
Accolate™	32	31	+3	116	107	+6
(アコレート)						
Oxis™	25	29	-17	101	120	-24
合計	722	661	+6	2,583	2,261	+8

- Symbicort™ は、急成長をみせる喘息およびCOPD市場の配合剤セグメントでシェアを獲得し、第4四半期の売上は20%増、通年では32%増でした。
- 喘息の試験では最大規模のひとつであるSTAY試験の結果が1月15日、*American Journal of Respiratory and Critical Care Medicine* 誌で発表されました。本データから、重篤な増悪の頻度を有意に45%軽減するなど、Symbicort™ Single Inhaler Therapy™ が従来の固定用量のSymbicort™ より優れたコントロールを提供することが初めて明らかになりました。中等度から重篤な喘息患者13,000例を含む追加の試験から、Symbicort™

Single Inhaler Therapy™ のコンセプトに関する新しいデータを加え、2005年の後半に、欧州相互認証方式による再申請を行う予定です。

- パルミコートの世界の売上の40%以上は、米国のPulmicort™ Respules™ の売上からによるものです。米国でPulmicort™ Respules™ の売上が17%増加したことにより、Pulmicort™ の売上が世界で4%増加しました。
- Rhinocort™ の通年の売上は、米国市場でRhinocort™ Aqua を含む吸入経鼻ステロイドの売上が概してほぼ横ばいだったため、3%減少しました。

オンコロジー

	第4四半期		CER %	通年		CER %
	2004	2003		2004	2003	
Casodex™ (カソデックス)	276	207	+29	1,012	854	+11
Zoladex™ (ゾラデックス)	242	239	-2	917	869	-1
Arimidex™ (アリミデックス)	233	147	+54	811	519	+48
Iressa™ (イレッサ)	80	92	-14	389	228	+65
Faslodex™	26	21	+24	99	77	+28
Nolvadex™ (ノルバデックス)	35	40	-13	134	178	-31
合計	895	750	+16	3,376	2,743	+16

- 米国以外のカソデックスの売上は、第4四半期で12%増、通年で11%増でした。日本の売上は引き続き好調で2004年は4%増でした
- 米国のカソデックスの売上は、2003年同期における大幅な在庫減少の結果、第4四半期で152%増でした。早期前立腺がん市場の成熟度を反映して売上は基本的に変わりませんでしたが、通年の報告ベースの売上は9%増でした。
- アリミデックス は、早期乳がんの術後補助療法での使用が増え、48%増の8億1,100万ドルを達成し、2004年も素晴らしい業績を収めました。アリミデックスのようなアロマトーゼ阻害剤は、この患者群の治療において重要であることが、American Society of Clinical Oncology が最近発表した治療ガイドラインの改訂版で明言されました。術後補助療法の初回治療の適応症を有する唯一のアロマトーゼ阻害剤として（80カ国で承認済み）、アリミデックスは、臨床の現場でこれらの治療のガイドラインが引き続き適用されることで使用の増大が期待されます。
- アリミデックスの米国以外の売上は通年で52%増で、予測成長率と一致していました。新規処方市場における乳がんのホルモン療法のシェアは、2003年同期比7.5ポイント増で、12月には29%に達しました。当社の予測では、早期乳がんと新たに診断された患者の50%以上は術後補助療法でアリミデックスの投与を受けています
- アリミデックスの米国での第4四半期の売上は89%増で、これは2003年の同期における在庫減を反映しています。
- アリミデックスの米国以外の売上は、第4四半期は39%増、通年では46%増でした。欧州では通年で48%増、日本では41%増でした。
- イレッサの売上は、通年で3億8,900万ドルでした。これには、米国の1億7,600万ドル、日本の1億3,600万ドルが含まれます。
- 2004年12月17日に、当社はISEL試験の初回解析の結果を発表しました。この結果は、進行肺がん患者全体において、イレッサはプラセボに比較し生存期間の延長における統計的有意差を示しませんでした。ただし、プロスペクティブなサブグループ解析の結果、イレッサは東洋人および非喫煙者の患者において、プラ

セボとの比較で、統計的有意差をもって生存期間の延長が示唆されました。2005年1月、当社は、欧州医薬品審査庁との協議をふまえ、イレッサの欧州販売承認申請を取り下げました。薬事当局の合意のもと日本を含むいくつかの市場では販売を継続します。しかしながら、当社はこの初回解析結果の示唆するところについて薬事当局と協議を行っており、ISEL試験の全体的な解析が終了するまで米国およびその他の市場におけるプロモーションを中止することを選択しました。

- イレッサの米国での第4四半期の売上は1,700万ドルでした。規制上の不確定要素や未使用製品の返品の可能性が高まることなどを勘案すると、第4四半期後半の売上収入を計上しませんでした。状況が安定するまで、米国でのイレッサの売上収益は、卸からの出荷ベースではなく患者使用ベースで計上します。

ニューロサイエンス

	第4四半期		CER %	通年		CER %
	2004	2003		2004	2003	
Seroquel TM (セロクエル)	562	428	+29	2,027	1,487	+33
Zomig TM (ゾーミック)	89	104	-17	356	349	-3
Diprivan TM (ディプリバン)	126	119	+4	500	458	+5
局所麻酔剤	144	122	+14	542	466	+8
その他	17	19	-11	71	73	-10
合計	938	792	+16	3,496	2,833	+19

- セロクエルは2004年、年間の売上で初めて20億ドルの大台を超えました。双極性障害におけるうつ病の適応症の上市の成功により、多くの主要な市場においてセロクエルは、非定型抗精神剤クラスでは他剤を上回っていました。
- セロクエルの米国での売上は通年で33%増、30%の処方増と一致していました。9月には、新規処方市場のシェアで非定型抗精神剤ではトップになりました。12月には、新規処方のシェアで27.5%を達成し、2003年12月と比較して、4.6ポイント増となり、これはこのクラスでトップレベルの伸びでした。
- セロクエルの米国での売上は、第4四半期は22%増でした。正味在庫変動により、予測成長率34%を若干下回りました。
- セロクエルの米国以外の売上は、第4四半期は58%増、通年では36%増でした。欧州の年間売上は45%増、カナダでは44%増、アジア太平洋地域では13%増でした。
- ゾーミックの通年の業績は、米国での売上は10%減少しましたが、その他の国・地域で伸び(2%増)たことにより一部、相殺されました。

地域別売上

	第4四半期		CER %	通年		CER %
	2004	2003		2004	2003	
米国	2,657	2,044	+30	9,631	8,747	+10
欧州	1,988	1,846	+1	7,649	6,709	+3
日本	412	356	+14	1,430	1,189	+11
その他	742	629	+16	2,716	2,204	+16

- 米国の成長率は通年で、2003年および2004年の正味在庫変動調整後、15%になると予測されました。PrilosecTMは5億ドル減少しましたが、CrestorTM、セロクエル、NexiumTM、アリミデックスが伸びたため、全体として売上は増加しました。

- 欧州の売上は通年で3%で、販売数量は伸びたものの実勢価格が下がったことで一部、相殺されました。 Losec™（25%減）および他の製品では減少しましたが、Crestor™の上市展開、Nexium™（26%増）、Symbicort™（29%増）、アリミデックス（48%増）、セロクエル（45%増）が堅調に伸びたため、全体として売上は増加しました。
- 日本の売上は、オンコロジー製品（19%増）および オメプラール（24%増）が好調で、通年で11%増でした。

営業レビュー

伸び率は恒常為替レート (CER)

通年

報告ベースで売上は14%増、営業利益は16%増でした。恒常為替ベースで売上は9%増、営業利益は15%増でした。米ドル安が売上に対し5%のプラス影響を与える一方、英ポンドとスウェーデンクローナ建てのコストが約7%増加した結果、全体として、為替は1株当たり利益に対して約1セントのプラス影響を与えました。年間でユーロは米ドルに対し9%高、英ポンドとスウェーデンクローナはそれぞれ9%高、11%高でした。

2004年初めに締結した在庫管理契約により在庫変動の減少に成功し、年末には、在庫は目標レベルに近づきました。年間で卸在庫は約1億5,000万ドル減少したと推定されます。2004年および2003年の卸在庫を調整すると、当社の総売上上の成長率は9%から11%に上昇すると推定されます。

営業利益率は21.8%から22.3%と0.5ポイント改善しました。為替による0.9ポイントマイナス影響を考慮すると実質改善率は1.4%となります。

売上総利益率は0.2ポイント減の76.0%でした。メルク社への支払い（年間で売上の4.9%に相当）の減少による0.9ポイントの改善要因とは逆に、Exanta™ の引当金1億5,100万ドルとイレッサの引当金8,500万ドルという1.1ポイント相当の悪化要因がありました。

研究開発費と販売費・一般管理費は合計で6%増加し（報告ベースでは13%増）、研究開発費は3%増、販売費・一般管理費は8%増でした。増加率は大幅に減少しましたが、これは、2003年下半期に増加し始めた発売コストが2004年には横ばいになったためです。引き続き厳格な経費管理が行われたこともあり、通年の利益率は1.1ポイント改善されました。更に、いくつかの小規模な事業の売却益や投資によるその他の営業収入により営業利益率は0.4ポイント改善されました。

第4四半期

報告ベースで売上は19%増、営業利益は55%増でした。恒常為替ベースでは、売上は16%増、営業利益は68%増でした。

第4四半期は、為替の営業利益への正味効果はマイナスであり、主に2003年第4四半期に見られたヘッジ効果が反復されなかったため、一株当たり利益を4セント引き下げました。昨年の第4四半期と比べると、ユーロが米ドルに対して9%高となり売上にプラス影響を与えましたが、スウェーデンクローナと英ポンドが米ドルに対してそれぞれ9%高、8%高となり、コストの増加要因となりました。

IMA（在庫管理契約）の運営が成功した結果、米国の第4四半期の売上は在庫変動の影響をほとんど受けませんでした。対照的に、2003年第4四半期には卸在庫は約1億5,000万ドル減少しました。

第4四半期の営業利益率は22.7%で、昨年を5.3ポイント上回りましたが、為替の影響で2.1%減少しました。

売上総利益率は73.7%で、昨年の第4四半期より3.2ポイント下回りました。メルク社への支払いは売上比5.0%で、昨年の第4四半期を0.3ポイント上回りました。メルク社への支払いを除くと、実質売上総利益率は2.9ポイント減少しましたが、このうち、Exanta™ とイレッサの引当金が2.6%の影響を与えています。第4四半期のExanta™ の引当金は7,100万ドルでイレッサの引当金は8,500万ドルでした。

全体として、研究開発費と販売費・一般管理費は29億9,300万ドルで、昨年より4%減少しました。昨年の第4四半期と比較すると、研究開発費と販売費・一般管理費合計で営業利益率に対し10.4ポイントの改善要因となりました。研究開発費は、主に共同開発費の減少と年間の均等な支出により、12%減少しました。販売費・一般管理費の伸びは、主にプロモーション経費の減少とコスト管理により、1%にとどまりました。

例外的項目

Advanta合併事業の売却は、売却金額2億8,400万ドルで2004年9月1日に完了しました。全ての受け取るべき支払い金は既に受領しました。売却取引諸費用および保証・損害賠償引当金を控除後の売却益は2億1,900万ドルでした。この売却に関する税金の支払いはありません。900万ドルの税控除は売却に伴うコストに反映されてい

ます。

2002年に例外的項目として計上されたゾラデックスの和解金3億5,500万ドルの一部が税控除の対象になることについて、米国の税務当局と合意されました。その結果、第3四半期に5,800万ドルが例外的税控除として計上されました。

利息・配当収入

正味利息・配当収入は通年で9,600万ドル（2003年は9,100万ドル）、第4四半期で2,600万ドルでした（2003年は2,000万ドル）。既報のとおり、正味利息収入には金利スワップ契約の終了に伴う利益が含まれています。

税金

例外的項目を除くと、2003年の27.2%に対し2004年通年の実効税率は27.1%でした。例外的項目に対する税も含む実効税率は、ゾラデックスの例外的税免除とAdvantaの株式の売却益により、通年で24.7%でした。2005年の実効税率は、海外の利益のミックスとIFRSの影響を受け、29%程度に上昇すると予想されます。その後は、これも海外の利益のミックスにより、実効税率は28%程度まで減少すると予想されます。

キャッシュフロー

例外的項目調整前の営業活動によるキャッシュフローは、本年通年で、2003年通年の46億1,700万ドルから、60億690万ドルに増加しました。この増加は、利益の増加と運転資本の増加が900万ドル（2003年は運転資本が11億100万ドル増加）と低いレベルにおさえられたことによるものです。2003年には、運転資本の3つの要素のすべてにおいて大幅な増加がありましたが、2004年は、在庫減少（1億2,900万ドル）、債務増加（7,100万ドル）といった運転資本減少要因が債権増（2億200万ドル）に相殺されました。在庫の減少は、一部、より厳しい在庫管理と2004年下半期の高い売上によるものですが、一方、Exanta™ とイレッサの引当金も一部寄与しています。債務の増加は主に仕入債務にみられました。第4四半期の売上、特に12月の売上が、2003年同期の売上を大幅に上回ったため、債権が増加しました。運転資本からのキャッシュフローは第4四半期に顕著に増加しました。これは、2004年9月と比べて上述の理由により減少した在庫と、9月よりも12月の売上が減少したことによる、債権減少によるものです。

例外的項目の現金支出は800万ドルでした。一方、ゾラデックスの調査にかかわる3億5,500万ドルの和解金を含む2003年の例外的項目の現金支出は3億9,100万ドルでした。

納税額は、昨年を3億6,000万ドル上回る、12億4,600万ドルでした。これは、昨年のグループ内債権・債務から生じた外国為替差損に関する大きな税控除と、2003年に生じたその他の控除によるものです。資本支出は12億9,600万ドルで昨年を3億100万ドル下回りました。Advantaの種子ビジネスに関する合併会社の株式の売却、およびDurascanの売却による収入は合計3億5,500万ドルに達しましたが、2003年の売却収入は Marlow Foodsの売却による8,000万ドルでした。従って、2004年のフリーキャッシュフロー（株主への配当および財務活動を控除前のキャッシュフロー）は、2003年の18億9,900万ドルに対し、39億3,200万ドルでした。

株の買戻しは総額22億2,100万ドルに達し、社外株主に支払われた配当は13億7,800万ドルで、2003年より1億5,600万ドル増えました。短期投資が8億6,200万ドル増加し、米国での債券による新たな資金調達7億4,600万ドルを含む7億2,700万ドルの財務活動収入の結果、正味キャッシュファンドは年初より4億7,800万ドル増加し、2004年12月31日現在で39億7,400万ドルでした。

配当と株主への還元

取締役会は第2回中間配当を19.4%引き上げ0.645ドル（34.3ペンス、4.497SEK）とし、これを2005年3月21日に支払うことを勧告しました。これにより、年間配当は18.2%増の0.94ドル（50.3ペンス、6.697SEK）となります。

取締役会は、株主に対する還元に関する戦略を継続的に見直していますが、収益にともない配当を引き上げる一方、一株当たり利益の対配当倍率を2倍と3倍の間レンジにおくという意図を繰り返し表明しています。また、取締役会は、株の買戻しプログラムは、キャッシュフローとキャッシュ残高過剰の可能性に対応する、重要な一部であると信じています。キャッシュの戦略的使用がなければ、取締役会は今後3年間に生み出されるフリーキャッシュフローを配分する予定です。現在の正味現金収支は40億ドルで、この期間の支払い義務を果

たすのに十分です。メルクが2008年にオプションを行使する可能性があります、これに関する最小支払義務額は33億ドルです。2005年に買い戻す株式数は2004年の水準を下回るものではないと予想されます。

株の買い戻しプログラム

当4半期中に総額6億6,200万ドルで普通株式1,660万株が買い戻され消却されました。その結果、通年の買い戻しは総額22億1,200万ドルで5,010万株となりました。

The total number of shares that remains in issue at 31 December 2004 is 1,645 million.
2004年12月31日現在、発行株式は16億4,500万株です。

研究開発パイプライン最新情報

最新の研究開発パイプラインの一覧表が本プレスリリースに添付されていますが、当社のウェブサイトの投資家情報のページでもご覧いただくことができます。www.astrazeneca.com

国際会計基準による再表示

アストラゼネカは国際財務報告基準（IFRS）と国際会計基準（IAS）を2005年1月1日より採用することを要求されています。これらの基準では、2003年の1株当たり利益1.76ドル（UK GAAPに比べ2セント減）に対し、2004年の1株当たり利益（例外的項目控除前）は2.01ドルです（UK GAAPに比べ10セント減）。主に、再現されないと思われる財務活動の利益により、IAS採用により2003年よりも2004年のほうが大きな影響がありました。これは、再現しないと思われる金融商品に関する利益が主な原因です。予測できない市場価値の調整があるかもしれませんが、2005年の1株当たりの利益はIFRSの影響により約5セント減少する可能性が高いと思われます。

これらの調整が与える影響の要約は本プレスリリースの15ページに記載されています。詳細は当社のウェブサイトをご覧ください。www.astrazeneca.com.

カレンダー

4月28日	第1四半期業績発表
4月28日	年次株主総会
7月28日	第2四半期・上半期業績発表
10月6日	第3四半期・9ヶ月累計業績発表

トム・マキロップ卿
最高経営責任者